



最初にお読みください

# AT-TQ2450 リリースノート

この度は、AT-TQ2450 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。  
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 1.0.0

## 2 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 1.0.0 には、以下の制限事項があります。

### 2.1 電源オフのタイミング

本製品の電源をオフにする際は、本製品の起動が確実に完了してから行ってください。本製品の起動が完了する前に電源をオフにすると、ファームウェアのバージョンの表示が「0.0.0」に変わることがあります。なお、本製品前面の SYSTEM LED 点灯中は製品が起動中であることを示しており、SYSTEM LED 消灯後 2 秒以上経過していれば確実に起動が完了しております。

### 2.2 イーサネット設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

「イーサネット設定」画面でサブネットマスク 0.0.0.0 が登録可能です。

### 2.3 無線

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

- サポートレートで有効にしているレートの組み合わせによっては、その設定の最高レートによる送信が行われないことがあります。
- 「プロテクション」を「オフ」にしても RTS/CTS が送出されます。
- サポートレートを超えるレートで送信されたパケットを受信します。
- 「モード」を IEEE 802.11a から IEEE 802.11a/n にすると、設定の変更がただちに反映されません。「無線 2」の「ステータス」を一旦「オフ」にして「オン」にするか、本製品を再起動してください。

### 2.4 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

- IEEE 802.1X、WPA エンタープライズのブロードキャストキーとセッションキーの更新が同一のタイミングで実行されます。

- ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。
- 無線 1 と無線 2 の両方がオンに設定されている状態で、セキュリティーとして WPA エンタープライズ (WPA2、CCMA (AES)) または IEEE 802.1X を選択し、VAP の 13、14、15 のいずれかの「有効」にチェックを入れて「適用」ボタンをクリックすると、該当の VAP に接続できないが、接続できても通信できません。再度「適用」ボタンをクリックするか、本製品を再起動することにより接続および通信ができるようになります。

---

## 2.5 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

LAN ポートでパケットを受信した後に統計情報を更新すると、送信 / 受信の総パケット / バイト数とともに送信の総エラー数もカウントアップします。

---

## 2.6 隣接アクセスポイント

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「隣接アクセスポイント」](#)

「直前のビーコン」の時刻表示が正しくないことがあります。

---

## 2.7 QoS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「QoS」](#)

- cwMin (最小コンテンツウィンドウ値) と cwMax (最大コンテンツウィンドウ値) に同じ値を入力することができます。値を変更する場合、 $cwMin < cwMax$  となるように入力してください。
- 「NoAck サポート」は機能いたしません。
- 「APSD サポート」は正常に機能いたしません。

---

## 2.8 設定、アップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

[「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

**重要**：アップグレードやダウングレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードやダウングレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。

また、アップグレードやダウングレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。アップグレードやダウングレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。

- バックアップ、リストア、アップグレードにおいて、設定ファイルやファームウェアファイルのフルパス名が 254 文字までしか入力することができません。

- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜きなどにより転送が不完全な状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再起動を行わないと、アップグレード中にメモリー不足となり、リポートしてしまうことがあります。

---

## 2.9 Web 設定画面

- 「SNMP マネージャのホスト名またはサブネット」にマスク長として 33～99 の値を入力すると、画面下部にデバッグメッセージが表示されます。また、マスク長の値を 100 以上にすると「サブネットが無効です」というメッセージが表示されます。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

- 「チャンネル自動管理」画面の「固定」チェックボックスを適用する際に、画面の下部にデバッグメッセージが表示されることがあります。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスター」](#) / [「チャンネル自動管理」](#)

- 「IP アドレスの取得」を「スタティック IP」（デフォルト）から「DHCP」に変更するとき、「DNS ネームサーバー」で「マニュアル」を選択する場合は「DNS ネームサーバー」の IP アドレスを入力してください。「DNS ネームサーバー」の IP アドレスが空欄のままでは「IP アドレスの取得」を「DHCP」に変更することができません。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

- 「IP アドレスの取得」が「DHCP」で「DNS ネームサーバー」が「マニュアル」（IP アドレス入力）の状態に設定されているとき、「IP アドレスの取得」を「スタティック IP」に変更することができません。この状態で、「IP アドレスの取得」を「スタティック IP」に変更するには、(1) まず「DNS ネームサーバー」を「ダイナミック」に変えて「適用」ボタンをクリックし、(2) 続いて「IP アドレスの取得」を「スタティック IP」に変えて「適用」ボタンをクリックしてください。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

- Web ブラウザーのキャッシュの影響によって画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、キャッシュをクリアしてください。

---

## 3 オンラインヘルプ / コマンドリファレンスの訂正

コマンドリファレンス (613-001462 Rev.A) およびオンラインヘルプ (ファームウェアバージョン 1.0.0B06) の誤記訂正です。

---

### 3.1 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

[「オンラインヘルプ」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

「VAP」画面の「IEEE 802.1X」および「WPA パーソナル」の「ブロードキャストキー更新間隔」のデフォルト値として「300」が記載されておりますが、正しくは「0」（キーを更新しない）です。訂正してお詫びいたします。

## 4 リファレンスマニュアルについて

---

最新のリファレンスマニュアル（613-001462 Rev.A）は弊社ホームページに掲載されていません。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>